

新型コロナウイルスの世界的感染拡大に動揺する世界市場

- 韓国やイタリア、イランなどでの新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され、世界の株式市場は全面安の展開となる。
- 世界保健機関(WHO)は韓国等での感染拡大は、「世界的大流行」ではなく「地域的な流行」との評価を示す。
- 米国経済は新型コロナウイルスの影響を受けにくいとの観測から、米ドル独歩高が進行し、豪ドルなどの通貨が軟調に推移。
- 中国では新型コロナウイルスの感染拡大は最悪期を脱しつつある。当面は中国および主要国の政策対応に注目集まる。

新型コロナウイルスの世界的感染拡大への懸念広がる

2月24日の世界の株式市場では、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への懸念から主要国の株価指数は軒並み全面安の展開となりました。

新型コロナウイルスの感染が急拡大した韓国やイタリアなどを中心に株安が広がり、投資家心理の悪化から米国株も前週末比3.4%の大幅な下落となりました(図1)。

韓国、イタリア、イランなどで感染者数が急増

2月24日の世界的株安の発端となったのは、韓国やイタリア、イランなど一部の国での新型コロナウイルスの感染急増にあると考えられます。

世界保健機関(WHO)によれば、韓国での新型コロナウイルスの累積感染者数は2月下旬から増加し始め、2月24日には763人(7日前比+733人)へ急増しました(図2)。

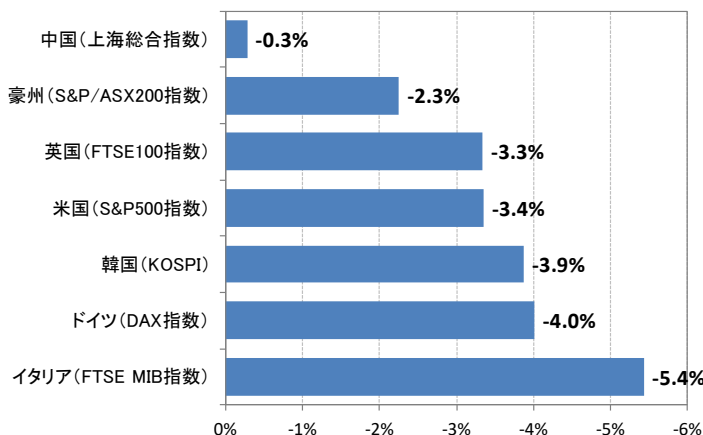
また、これまで感染がほとんど確認されていなかったイタリアやイランでも先週末から感染者数が増加傾向にあり、2月24日時点のイタリアの累積感染者数は124人(同+121人)、イランでは43人(同+43人)となりました。

WHOは韓国等での感染拡大を地域的流行と評価

このほか、日本でも新型コロナウイルスの感染者数は緩やかな増加傾向にあり、2月24日時点の累積感染者数は韓国に次ぐ144人(同+85人)に拡大しました。一方、アジア諸国の中でも、シンガポールや香港では感染が抑制される傾向にあるなど、国や地域に応じて新型コロナウイルスの感染の程度には依然大きな開きがあります。

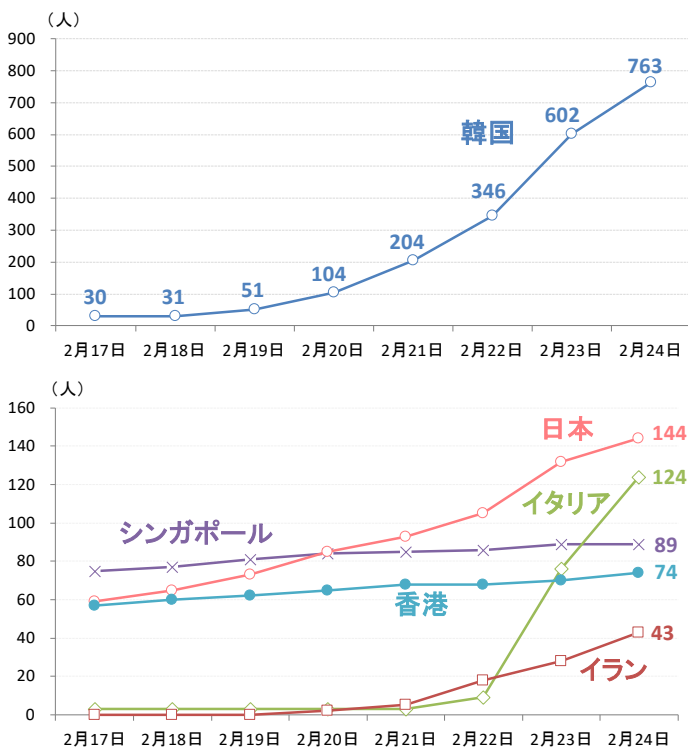
WHOのテドロス事務局長は2月24日の会見で、足元での韓国・イタリア・イランでの新型コロナウイルスの感染拡大は「パンデミック(世界的な大流行)」には至っておらず、「エピソード(地域的な流行)」に留まるとの評価を下しています。

図1:2月24日の主要国の株価騰落率(前週末比)



(出所)ブルームバーグ

図2:主要国での新型コロナウイルスの累積感染者数



(出所)世界保健機関(WHO) (期間)2月17日~2月24日

(注)中国本土を除く新型コロナウイルスの感染者数が多い主要国。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。

米ドル独歩高の裏側で豪ドル相場は軟調に推移

また、年明け以降の為替市場では、米国経済は新型コロナウイルスの感染拡大からの直接的な影響を受けにくいとの観測から、米ドル独歩高の基調が強まりつつあります。

足元の米ドル独歩高の裏側で豪ドルなどの通貨が米ドルに対して軟調に推移するなど(図3)、新型コロナウイルスの問題は為替相場にも副次的な影響をもたらしています。

中国での感染拡大は既に最悪期を脱しつつある

もともと、新型コロナウイルスの感染源とみられている中国では、既に感染拡大は最悪期を脱しつつある模様です。

中国国家衛生健康委員会によれば、統計の基準変更による一時的な異常値を除けば、中国での新型コロナウイルスの新規感染者数は2月4日の3,887人をピークに減少傾向にあります(図4上段)。

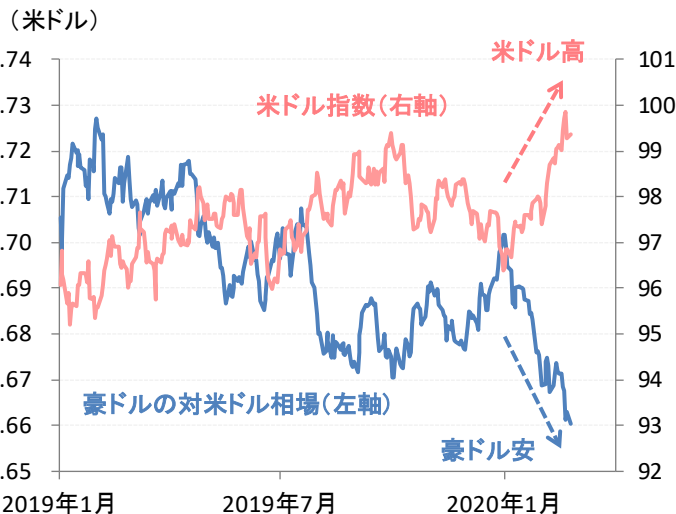
さらに、2月下旬以降は新規の完治・退院者数が新規感染者数を上回る傾向にあり、新型コロナウイルス感染の治療にも一定の成果が見えつつあります。中国での新型コロナウイルスからの完治・退院者数(累積ベース)は2月24日時点で27,230人に達しており、累積感染者数の35%程度は回復に向かっているとみられます(図4下段)。

当面の世界の金融市場の注目点

当面の世界の金融市場では、①新型コロナウイルス問題の震源地である中国での感染抑制傾向が今後も維持されるかどうかや、②韓国やイタリア、イラン、日本などその他の国での感染拡大に歯止めがかかるか(新型コロナウイルスの世界的な大流行が回避できるか)、などに注目が集まりそうです。

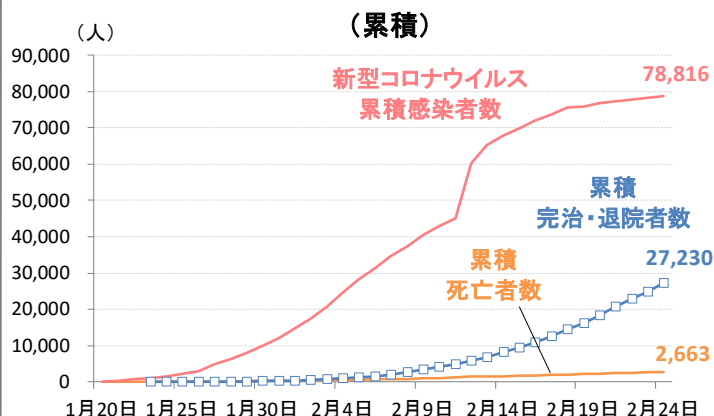
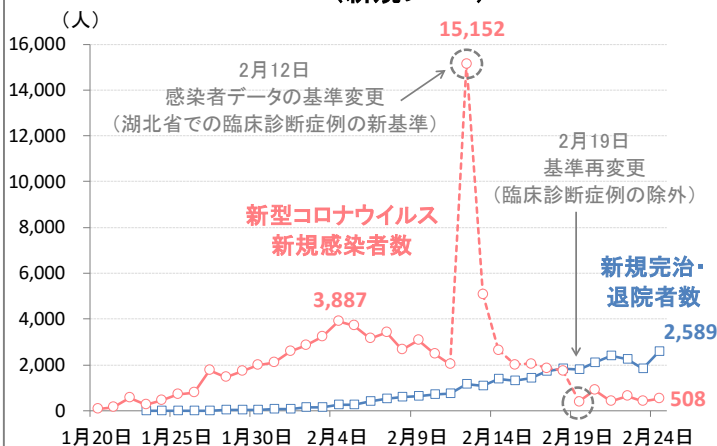
向こう数週間から数カ月の各国政府による感染防止策が功を奏し始め、世界的な新型コロナウイルス問題に終息の目途が生まれれば、市場心理の悪化によって売り込まれた各国株式や通貨にも見直しの余地が生まれる可能性もあると考えられます。

図3: 米ドル指数と豪ドル相場の推移



(出所)ブルームバーグ (期間)2019年1月1日~2020年2月24日
(注)米ドル指数は主要通貨に対する米ドル・レートを指数化したもの。

図4: 中国での新型コロナウイルスの感染・治療状況 (新規フロー)



(出所)中国国家衛生健康委員会 (期間)1月20日~2月24日
(注)累積感染者数は新規感染者数の累積値。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したのですが、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。